



2012 FUJI CHAMPION RACE SERIES ROUND 5



REVIEW



F4

ROUND 6



RESULT リザルト F4

Rank	No.	Name
1	1	高星 明誠
2	12	石川 京侍
3	14	武平 良介
4	72	金井 亮忠
5	70	伴 貴広
6	3	中山 雅佳

最終戦を迎えたF4東日本、ここまで14 クイック羽生ZAP JSS武平良介と7 TAIROKU・RK01山口大陸が2ポイント差でのチャンピオン争いとなっている。予選では1'42.452を出しポールを決めたのは12佐藤制作所☆Rn-sミストZSの石川京侍。14武平、1 B・MAX-RK01・TODA 高星明誠と続く。日曜日の決勝日には雨が降ったり止んだりしていたが、このレースのスタート時は雨こそ落ちていないものの路面はウェット状態。そんな中で始まった決勝は好スタートの1高星がトップで1コーナーへ、続くポールシッターの12石川、14武平の順、前半での4番手争いを尻目にトップ3台は淡々と逃げ切る体制に、5ラップ目あたりから徐々に雨が落ちてくる。終盤になって1・2位の差が縮まってきたが、1高星が逃げ切った。2位に12石川、3位に武平が入りシリーズチャンピオンを決めた。1高星は「石川選手には追い上げられましたが、逃げ切ったことが嬉しい!」とコメント。

REVIEW



Netz Cup Vitz Race 2012

KANTO Series Round 4



RESULT リザルト Netz Cup Vitz Race

Rank	No.	Name
1	13	蓬田 昭男
2	5	小野田 貴俊
3	1	小山 昌子
4	108	峯 幸弘
5	34	渡辺 圭介
6	12	常盤 剛史

ネットカップヴィッツ関東シリーズも今回が最終戦、57台エントリーでA/B各クラスに分かれての予選が行われた。12台が記録タイムを更新する中でトップタイムを出したのはA組・アウトサイドからスタートする 5 N東埼玉ワークスEDVitz 小野田貴俊で2'15.409のタイム。予選通過をした45台が決勝レースにのぞみ、小雨交じりのスタートではトラブルなくきれいな隊列で1コーナーへ向ってゆく。1周目を終えトップで戻ってきたのは5小野田、1秒ほど離れているもののすぐ後に続く2番手争いがかなり激しい。毎周回順位が入れ代わる激しい戦いの中、5周目には13DjacWmヴィッツML 蓬田昭男がトップに立つ。そのまま徐々に引き離しにかかり、トップでチェッカーを受けた。5小野田が2位、3位には1ネットトヨタ仙台ヴィッツ小山昌子となった。13 蓬田は「ウェットコンディションは好きなのでとにかくトップでチェッカーを受けたいと頑張りました」と話していた。

REVIEW



TMSC Vitz Clubman Vitz Race Series 2012

KANTO Series Round 5



今回最初の決勝レースは土曜日の午後一番に行われたTMSC VitzClubman Race関東シリーズ第5戦、午前中の予選でトップをとったのはNCP91クラス 1 ENDLESSADVANVitz 村田信博、2'14.677のタイム、そこに36 Vitz仁光RSWAKOS 石川光久、222 TMSC Vitz 奈良紀康が続く、決勝スタート時には晴れ間も見え、気温18度、路面温度23度と絶好のコンディション、スタートからこの3台が並んでコーナーへ侵入していくほどの接戦が続き、2周目には222奈良がトップに立つがコーナーごとに順位が入れ代わるほどの大混戦で、6周目36 石川、7周目に1村田がまたトップを奪い返すという激しい8周のレース、コンマ0.062秒差で先にチェッカーを受けたのは1 村田だった。2位には36 石川、3位に40 ガレージミヤタリミットヴィッツ 宮田耕治が入った。前戦の筑波で早々にチャンピオンを決めていた1村田は「すごい楽しいレースが出来ました!」と笑顔で話していた。

RESULT リザルト TMSC Vitz

Rank	No.	Name
NCP91		
1	1	村田 信博
2	36	石川 光久
3	40	宮田 耕治
SCP10		
1	18	鈴木 克彦

REVIEW

SUPER FJ/FJ1600
Round 6



RESULT リザルト SUPER FJ

Rank	No.	Name
1	58	石川 京侍
2	62	山下 健太
3	36	太田 達也
4	75	上別府 将司
5	43	林 周平
6	22	赤堀 憲臣

RESULT リザルト FJ1600

Rank	No.	Name
1	6	笹尾 徹也
2	38	原田 健
3	20	柿島 昭一
4	99	中嶋 香子

REVIEW

N1400/N1000/DEMIO(N1)
Round 3



RESULT リザルト DEMIO(N1)

Rank	No.	Name
1	103	R.P.M/H
2	8	大谷 淳

シリーズ3戦目になるN1400/N1000/デミオクラス、シリーズチャンピオンの行方もまだまだわからないくらいのポイントで接戦が続いている。こちらのレースも土曜日のワンディで行われたが、土曜日午前中の予選でトップタイムを叩き出したのはN1400クラス31 東京IRC石松μML日建82の黒須聡一、2'08.384でコースレコードも更新した。続いては9 IDI小倉自動車東播木内R82小山雄一、13高田眼科MMS岸本RSカルタス 北川信弘となっている。N1000クラスでは、7 WEDSアドバンEDヴィッツ 松波太郎が2'17.515のコースレコード更新でトップからのスタート、そこに77 FNKアドバンEDヴィッツ7の深沢雅文が続く。デミオはお馴染み103 阿部組WMデミオRPM/H R.P.M/Hがトップからのスタートだ。きれいにスタートした決勝では予選順位どおりに1コーナーへ向っていき、1周目にトップで戻ってきたのは31黒須、僅差で9小山、4番手スタートの26東車協青年部スグルスターレットの斉藤和実が続く、3周目には、26斉藤が2番手に上がってきた。N1000クラスでは7松波、77深沢の順、上位3台は各車1秒差ほどを保ったまま、その順位でチェッカーを受けた。N1000クラスもそのまま7松波が、デミオクラスでも103R.P.M/Hがトップでチェッカーを受けた。最終戦までチャンピオンの行方がわからなくなったこのレースを制した31黒須は「マシンの調子も良かったし、タイヤも温存できて上手くレースが運びました」と喜びのコメント、N1000 7 松波は「車が調子よくなってきました。前回、ポイントが無かったのが惜しかったので、今回が絶対に頑張ろうと思っていました」と話していた



RESULT リザルト N1400

Rank	No.	Name
1	31	黒須 聡一
2	26	斉藤 和実
3	9	小山 雄一
4	13	北川 信弘
5	0	戸敷 直人
6	21	大竹 直



RESULT リザルト N1000

Rank	No.	Name
1	7	松波 太郎
2	77	深沢 雅文
3	41	佐藤 英二
4	32	海野 純也
5	2	あおき みのる
6	51	清水 悠祐

REVIEW

SILVIA-180/MR2/NA1600
N1600/COLLORA AXIO GT
ROUND 3



RESULT リザルト **SILVIA-180**

Rank	No.	Name
1	24	瀧下 貴之
2	96	落合 立成

RESULT リザルト **NA1600**

Rank	No.	Name
1	37	秋元 優範
2	99	竹内 秀伸
3	73	小宮 伸介

RESULT リザルト **N1600**

Rank	No.	Name
1	40	柳本 文彦
2	240	山口 崇
3	36	大石 重之
4	41	中村 徹
5	16	朝倉 潤司
6	98	久保 雅俊

RESULT リザルト **MR2**

Rank	No.	Name
1	78	谷田 伸行
2	3	土取 謙太郎
3	76	深田 篤史
4	4	阿部 恵一
5	26	藤永 雅彦

REVIEW

ROADSTER NA6 / 86&BRZ
ROUND 3



RESULT リザルト **ROADSTER**

Rank	No.	Name
1	1	雨宮 恵司
2	8	福永 健二
3	9	万歳 聡
4	24	田辺 良輔
5	21	あすか
6	43	大井 正伸

RESULT リザルト **86&BRZ**

Rank	No.	Name
1	52	蒲生 尚弥
2	35	小河 諒
3	36	畠中 修



今回が3戦目のこのクラスは日曜日の最後のレース、15:00スタートで行われた。午前中の予選もこの決勝でもウェットコンディション。予選でトップタイムを出したのはNA1600クラス99 バウアーハウスR&サン整備92 竹内秀伸 2'11.481のタイム、続いてはN1600クラス240ガレージアネックス・μ・レビン 山口崇 2'11.915。3番手にはMR2クラス78 ダイエーモータースDXLMR2 谷田伸行となった。各クラストップが上位3台となっているが、いつものようにスターティンググリッドは加速差を考慮してNA1600、MR2&シルビア、N1600クラスが間を空けてのグリッド整列となっている。決勝スタート時には雨脚が見えるほどの大粒の雨が落ちてきて、路面からもういぶん水しぶきがあがる中でのスタート、全車グリッドの順できれいに1コーナーに消えてゆく。前半で徐々に追いついてきて、一時は総合4番手まで上がってきたのがN1600クラストップの240山口、それに続いてクラス2番手からの40 AS柳本IDIバッシングレビン 柳本文彦も猛追を魅せ、9周目にはクラストップに立つ。NA1600クラスも2番手スタートの37 秋元が9周目にトップに、MR2は序盤に3 MSPLアクレMOTYSMR2 土取謙太郎が前に出るも78谷田が抜き返しトップでチェッカーを受けた。シルビアでは24プロμフルスロサイトウシルビア 瀧下貴之が優勝した。総合優勝でシリーズチャンピオンも最終戦を待たずに決めた37 秋元は「ラッキーな年でした。とにかく楽しんでレースをやっています」と話していた。

3戦を迎えたロードスター、今回から86/BRZも初参加しての混走レースになる。チャンピオンレースの前身の富士フレッシュマンレースの頃にはフレッシュマンといえば“ハチロク”が全盛で、多いときには3クラスに分かれての予選、エントリーも100台をゆうに越えているほどの人気カテゴリー、ここから今のトップドライバーも多く産出してきたマシンだけに、新生の86/BRZクラスにも大いに期待が高まる。今回はまだ3台のエントリーだが、来シーズンに向けて参加台数もどこまで増えていくか、楽しみなクラスが復活した。土曜日のワンディで予選・決勝が行われるスケジュールで、予選トップは86クラス52 86RACER'S 蒲生尚弥が2'07.761というタイム。ロードスターNA6クラストップはコースレコードも更新、シリーズランキングトップの1コーンズIDIロードスターの1 雨宮恵司が2'08.663で堂々のトップ。午後の決勝ではグリッドが1〜7の14台がロードスター、14グリッド空けて86/BRZの3台が並ぶ形にとられ、スタートが切られた。ロードスターはトップから7台がダンゴ状態、毎周回のように順位が入れ代わる大接戦、一方86/BRZクラスは予選の順番どおりに順位こそ落ち着いてはいるが、2周目にはもう52蒲生がロードスターのトップ集団に追いついてきている。10週のレースを終える頃には86/BRZがトップ3を占め、その後にロードスターが続くという結果となった。総合・クラストップでチェッカーを受けた52 蒲生は「テストでもかなり走りこんできましたので、セッティングが上手く出せました」と話し、シリーズチャンピオンを決めて今回は優勝を決めたロードスターの1雨宮は「レース前に監督から“面白くしろよ”と言われたのでそのとおりに」と笑い、「楽しくレースが出来ました、86は思っていたよりストレートは速くなかった」とコメント